

第496回 三水会便り

2月現地集会/上野原要害山も延期 コロナ禍に振り回され活動できず

新型コロナウイルスに振り回されています。年明け早々に2回目の緊急事態宣言が出されたにもかかわらず、状況は改善しません。期限は2月7日ですが、解除する要因はみあたりません。不要不急の外出を自粛するよう、また午後8時以降の店舗営業を控えるよう要請されています。そんなわけで、2月の現地集会も延期いたします。山登りが“不要”だとは思いません。残念です。3月には実施できるよう期待しましょう。

ことしの節分は2月2日。暦のずれを調整するため例年より早くなりました。124年ぶりだそうです。一日早く「鬼は外！」。(高橋重)

2月の現地集会

■JR中央線/尾続山→コヤシロ山→要害山 <3月に延期>

集合/JR上野原駅 8:25, 飯尾行きバス乗車 8:32→8:50 尾続バス停→尾続山→コヤシロ山→要害山→風の神様→鏡瀬橋バス停→上野原◇所要時間/約4時間◇歩行距離/約6km, 高低差300m◇係り/高橋あかね

◇三水会当面の予定

実施	例会	現地集会
2月	2/17 石塚嘉一/延期	2/25JR中央線尾続山/延期
3月	未定	2月計画を実施予定

■「三水会便り」バックナンバー見つかる デジタルで保存へ 求む/欠番1~195号・330~389号

外出自粛要請を受け、家にこもって資料の整理を続けている。“終活”と、冷やかされた。書類箱のなかから古い三水会便りがまとめて出てきた。196~329号の計134通。1994(平成6)年9月から2006(同18)年3月までほぼ12年間にわたって几帳面に残っていた。最も古い196号には、夏の大山参り、あんころ餅と薬湯の集い、金峰~国師岳、釈迦ヶ岳などの案内が、狭い葉書のなかに要領よく、びっしりと収録されていた。文面からみんな元気だったことが伝わってくる。活気にあふれていた。同時に、「記念誌」も出てきた。このほうは、「設立15周年」から「20周年」「25周年」「30周年」「35周年」「40周年」を残していた。改めて、かつ懐かしく読ませていただいた。JACホームページで公開された会報「山」からは、中保会員(三水会設立発起人)が設立の際に綴った文章が見つかった。1975(昭和50)年8月号に収録されていた。いまも内容は色褪せていない。率直な呼びかけに、思いを同じく感動する。

三水会について 楽しい会を作ろうではないかと集まった。山岳会には集會係があり、その中に入っていっていいのではないかなと思うのだが…。しかし、若い海外登山をめざす会員には参考になり、大学を出たての新人会員は楽しくついてゆけるが、われわれ中年層の者たちは勇気がないので、なかなか集會に入ってゆけない。誰もが気楽に集れて、気分が合った人たちが肩のこらない話し合いのできる場が欲しい。そんなのぞみをかなえる集會が、必要ではないだろうか…。(会報「山」362号、一部抜粋)

実は「15・20周年記念誌」に、月報「山」に掲載された三水会の記事一覧表が掲載されている。最初に出ているのが中保会員の記事だ。これを頼りにJACホームページに収録された記事に巡り合えた。古い三水会便りをすべてデータ化したい。欠番は1~195号と330~389号だ。保存しているかたがいらっしゃれば、ぜひお借りしたい。三水会のデータ化が完成する。

◇**会員異動** 退会/掛江正通(13457) 日本山岳会を1/29付けで退会されました。

三水会便り 第496回 発行2021年2月1日
東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会三水会
便り担当 北口マリ子, 山口延子, 文責/高橋重之